

セクション 1: 化学物質特定情報および会社情報

製品特定情報

製品形態	混合物
製品名	CAT-50
製品グループ	純物質
別名	白金触媒

該当物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途

物質／混合物の用途	業務用のみ。
使用上の制限	追加情報なし

安全データシートの提供者に関する詳細

会社名

NuSil Technology LLC
1050 Cindy Lane
Carpinteria, California 93013
USA
(805) 684-8780
productstewardship@avantorsciencesgcc.com
www.nusil.com

緊急時の連絡先電話番号

緊急連絡先電話番号 800-424-9300 CHEMTREC (米国内)
+1 703-527-3887 CHEMTREC (国際および海上)
+(81)-345209637

セクション 2: 危険有害性情報

物質または混合物の分類

GHS-JP 分類

物理的危険性	引火性液体、区分 3
健康に対する危険有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性、区分 1
環境有害性	水生環境有害性 - 慢性有害性、区分 3

ラベル要素

有害性に関する絵表示 (GHS-JP)



注意喚起語 (GHS-JP)

危険有害性情報 (GHS-JP)

危険

引火性の液体および蒸気。(H226)
眼に対する重篤な損傷性 (H318)。
長期的影響により水生生物に有害 (H412)。
熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
(P210)
容器を密閉しておくこと。(P233)
容器を接地しアースを取ること。(P240)
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。(P241)
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
静電気放電を防止する措置を講ずること。(P243)

予防の注意書き

CAT-50

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

対応の注意書き

環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。(P280)
皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。水で皮膚を洗浄すること。(P303+P361+P353)
眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗浄すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)。

保管の注意書き

直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。(P310)。
火災が発生した場合:適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)。
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)。
内容物/容器は国際/国/都道府県/市区町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

廃棄の注意書き

その他の危険有害性

分類につながらないその他の危険有害性

既存の眼疾患、皮膚疾患、または呼吸器系疾患がある場合は、暴露によりこれらの疾患が悪化するおそれがある。

セクション 3: 組成、成分情報

物質または混合物の識別

混合物

名称	濃度	化学式	公報リストの参照番号		CAS 番号
			CSCL 番号	ISHL 番号	
テトラメチルジビニルジシロキサン	10~30%	C8H18OSi2	(7)-483	(7)-483	2627-95-4
白金触媒	10%未満	特記なし	-	1-(2)-239	68478-92-2
オクタメチルシクロテトラシロキサン	< 0.25%	C8H24O4Si4	(7)-475	(7)-475	556-67-2

セクション 4: 応急措置

応急措置の説明

一般的な応急措置

意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける(可能な場合は製品のラベルを提示する)。

吸入した場合の応急措置

症状が発生した場合:屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。呼吸困難が続く場合は、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合の応急措置

汚染された領域を直ちに水で 15 分以上洗い流す。直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける。

眼に入った場合の応急措置

直ちに水で 30 分間以上洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合の応急措置

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師による手当てを受けること。

応急処置をする者の保護措置と対策

適切な個人用保護具(PPE)を着用する。

最も重大な症状および影響(急性および遅延性)

症状/影響

眼の重篤な損傷を引き起こす。

吸入した場合の症状/影響

長時間暴露により、炎症を引き起こすおそれがある。

皮膚への接触後の症状/影響

長時間暴露により、皮膚の炎症を引き起こすおそれがある。

眼に入った場合の症状/影響

角膜、虹彩、または結膜に恒久的な損傷を引き起こす。

飲み込んだ場合の症状/影響

飲み込むと有害な影響を及ぼすおそれがある。

慢性症状

通常の使用条件下では予想されない。

CAT-50

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

即時の医療措置および特別な治療の対象となる症状

暴露した場合や暴露が懸念される場合には、医師の診察、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合は、製品の容器やラベルを持参すること。

セクション 5: 火災時の措置

消火剤

適切な消火媒体

粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、二酸化炭素 (CO₂)。水は、消火に効果的でないこともあるが、火にさらされた容器を冷やすには水を使用する。

不適切な消火媒体

強力な放水を使用してはならない。強力な放水を使用すると、燃焼している液体が広範囲に飛散する可能性がある。

物質または混合物に由来する特別な危険有害性

火災危険性

引火性の液体および蒸気。蒸気が発火源に移動し、逆火するおそれがある。水面に浮いて再点火する可能性がある。

爆発危険性

可燃性または爆発性の蒸気・空気の混合物が発生するおそれがある。

反応性

強酸化剤には、激しく反応する。火災または爆発の危険性が増大するおそれがある。

消火時の注意事項

火災に関する予防措置

化学物質による火災の消火は慎重に行う。

消火時の指示

露出した容器の冷却には水噴霧または水霧を使用する。大火災および大量の場合：退避する。爆発の危険があるので、十分に距離をとった位置から消火を行う。

消火時の防護

呼吸用保護具を含む適切な保護具を着用していない者は、火災発生エリアに立ち入ってはならない。

有害燃焼生成物

炭素酸化物 (CO、CO₂)。ホルムアルデヒド。プラチナ酸化物。ケイ素酸化物。

その他の情報

消火活動の際の流出物が排水設備や水路に入らないようにすること。

セクション 6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具、および緊急措置

一般的な措置

熱、高温の表面、火花、裸火、その他の着火源から遠ざけること。禁煙。静電荷の発生を避けるために特別な注意を払う。眼、皮膚、衣類への接触はしないこと。蒸気、ミスト、噴霧を吸引しないこと。

二次災害の防止策

衣服その他可燃性物質の近くにおかないこと。裸火、火花から遠ざけること。禁煙。

緊急救援隊以外の人員

保護具

適切な個人用保護具 (PPE) を使用する。

緊急措置

不必要な人員を退避させる。安全な場合は漏出を止める。

緊急対応にあたる人員

保護具

浄化担当スタッフに適切な保護具を着用させる。

緊急措置

最初に着火源を除去してから、汚染場所の換気を行う。現場に到着したら、まず危険なものがないことを確認し、自分自身や人々の身の安全やその付近の安全を図り、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。

環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。環境への放出を避けること。

CAT-50

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

封じ込めおよび浄化の方法・資材

封じ込め

即時的な予防措置として、全方向の流出あるいは漏出エリアを隔離する。漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。

浄化方法

漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。火花を発生させない工具のみを使用すること。不活性物質を用いて漏出した物質の吸収や封じ込めを行う。可燃性の物質（おがくずまたはセルロース系の物質）で吸収してはならない。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。

他のセクションの参照事項

暴露防止と保護措置についてはセクション 8 を、廃棄上の注意についてはセクション 13 を参照すること

セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

安全な取扱いに関する注意事項

加工時の追加的有害危険性

空の容器は、可燃性の残留蒸気が内部に残っているおそれがあるので、取扱いは慎重にする。温度が 150°C (300°F) を超えると分解し、ホルムアルデヒドの蒸気を発生する。

技術的対策

熱、火花、裸火、高温の表面を避けること。- 禁煙。

安全な取扱いに関する注意事項

火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。(蒸気、ミスト、噴霧の) 吸入は避けること。眼に入ること、皮膚、衣類への接触は避けること。飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹼と水で洗浄する。

混触危険物質や混合物の取扱いを防止

次のものを避けること: 混触危険物質。

衛生対策

労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。

局所および一般的な換気

十分な換気を確保する。

安全な保管の条件 (混触危険性を含む)

技術的対策

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電に対する措置を講ずること。容器を接地しアースを取ること。適用される規則を遵守する。

保管条件

乾燥した涼しい場所に保管すること。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて維持/保管すること。換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。耐火性の場所に保管すること。

混触危険物質

強酸、強塩基、強酸化剤。

梱包/容器に使用されている材料

追加情報なし

特定の最終用途

業務用のみ。

セクション 8: 暴露防止および保護措置

管理基準

追加情報なし

生物学的限界

追加情報なし

CAT-50

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

暴露防止

適切な工学的管理

十分な換気が行われるようにすること(特に狭いエリアにおいて)。防爆型の機器を使用すること。静電気を避けるために適切な接地手順に従うこと。可燃性のガスまたは蒸気が放出されるおそれがある場合には、ガス検出器を使用する。暴露の危険性のある区域のすぐ近くに、緊急用の洗眼器および安全シャワーを設置しなければならない。国/地方公共団体の規則を確実に遵守する。手袋。保護衣。保護ゴーグル。

個人用保護具



保護衣の素材

耐化学物質性の素材および繊維。耐火/防災/難燃性の衣類を着用すること。

手の保護

保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

化学薬品対応の安全ゴーグル。

皮膚および身体の保護

適切な保護衣を着用すること。

呼吸器系の保護

暴露限界値を超えるか、呼吸器への刺激が発生した場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用する必要がある。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用すること。本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。

その他の情報

セクション 9: 物理的および化学的性質

基本的な物理的・化学的性質に関する情報

物理状態

液体

外観

無色から黄色がかった液体

臭い

無臭

臭いの閾値

データなし

pH

データなし

蒸発速度

データなし

融点

データなし

凝固点

データなし

沸点

データなし

引火点

49 – 61 °C (120 – 142 °F)

自然発火温度

データなし

分解温度

データなし

燃焼性

データなし

蒸気圧

データなし

相対蒸気密度(20°C)

データなし

密度

データなし

相対密度

<1(水 = 1)

溶解度

データなし

分配係数:N-オクタノール/水

データなし

粘度

データなし

爆発限界

データなし

粒子特性

データなし

その他の情報

揮発性有機化合物(VOC)の含量

< 1%

CAT-50

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 10: 安定性および反応性

反応性

強酸化剤には、激しく反応する。火災または爆発の危険性が増大するおそれがある。

化学的安定性

引火性の液体および蒸気。可燃性または爆発性の蒸気・空気の混合物が発生するおそれがある。

危険有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、熱、熱い表面、火花、裸火、混触危険物質、およびその他の発火源となるもの。

混触危険物質

強酸、強塩基、強酸化剤。

危険有害な分解生成物

熱分解により、以下を生成する可能性がある：炭素酸化物(CO、CO₂)。プラチナ酸化物。ケイ素酸化物。温度が 150°C (300°F) を超えると分解し、ホルムアルデヒドの蒸気が発生する。ホルムアルデヒドは発がん性を持つ物質であり、皮膚および呼吸器官系に対して感作物質として作用する可能性がある。ホルムアルデヒドはまた、呼吸器および眼への刺激を引き起こす可能性がある。

セクション 11: 有害性情報

毒性影響に関する情報

考えられる暴露経路

経皮、経口摂取、吸入、眼への接触

急性毒性(経口)

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

急性毒性(経皮)

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

急性毒性(吸入)

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

テトラメチルジビニルジシロキサン(2627-95-4)

LD50 経口 ラット

10 g/kg 超(出典:NLM_CIP)

LC50 吸入 ラット

1875 mg/m³超(暴露時間:6時間、出典:ECHA_API)

オクタメチルシクロテトラシロキサン(556-67-2)

LD50 経口 ラット

> 4800 mg/kg(死亡なし)

LD50 経皮 ラット

> 2375 mg/kg(出典:ECHA)

LD50 経皮 ウサギ

> 2.5 ml/kg(死亡なし)

LC50 吸入 ラット

36 mg/l/4時間

皮膚腐食性/刺激性

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

重篤な眼の損傷を引き起こす

呼吸器官系または皮膚感作性

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

生殖細胞変異原性

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

発がん性

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

生殖毒性

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

特定標的臓器毒性(STOT) - 単回暴露

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

特定標的臓器毒性(STOT) - 反復暴露

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

吸引力呼吸器有害性

未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

CAT-50

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 12: 環境影響情報

毒性

水生環境有害性、短期(急性) 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

水生環境有害性、長期(慢性) 長期的影響により水生生物に有害

テトラメチルジビニルジシロキサン(2627-95-4)

LC50 魚類 > 0.13 mg/L(暴露時間:96 時間 - 種類:ニジマス[流水] 出典: ECHA)

オクタメチルシクロテトラシロキサン(556-67-2)

LC50 魚類 > 22 µg/l

NOEC 慢性魚類 0.0044 mg/l

残留性および分解性

CAT-50

残留性および分解性 水域環境で長期的な悪影響を与えるおそれがある。

生物蓄積性の可能性

CAT-50

生物蓄積性の可能性 立証されていない。

テトラメチルジビニルジシロキサン(2627-95-4)

分配係数 n-オクタノール/水(Log Pow) 5.4(20°C で)

オクタメチルシクロテトラシロキサン(556-67-2)

BCF 魚類 12400

分配係数 n-オクタノール/水(Log Pow) 6.488(@ 25.1°C)

土壤中の移動性

追加情報なし

その他の有害な影響

オゾン層に有害

未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

その他の情報

環境への放出を避けること。

セクション 13: 廃棄上の注意

廃棄物処理方法

推奨される廃棄方法

内容物/容器は国際/国/都道府県/市区町村の規則に従って廃棄すること。

その他の情報

空の容器は、可燃性の残留蒸気が内部に残っているおそれがあるので、取扱いは慎重にする。

生態系 - 廃棄物質

水生環境に有害な物質。下水と排水溝への流入を防止すること。環境への放出を避けること。

セクション 14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDS の起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDS が発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

UNRTDG に準拠

正式輸送品名

引火性液体、N.O.S.(テトラメチルジビニルジシロキサン)

CAT-50

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

梱包・包装等級 III
ID 番号 1993
危険等級 3
ラベルコード 3



IATA に準拠

正式輸送品名 引火性液体、N.O.S. (テトラメチルジビニルジシロキサン)
梱包・包装等級 III
ID 番号 UN1993
危険等級 3
ラベルコード 3
ERG コード(IATA) 3L



IMDG/IMO に準拠

正式輸送品名 引火性液体、N.O.S. (テトラメチルジビニルジシロキサン)
危険等級 3
ID 番号 UN1993
梱包・包装等級 III
ラベルコード 3
EmS 番号(火災) F-E
EmS 番号(漏出) S-E



その他の情報

その他の情報 補足情報なし。

セクション 15: 適用法令

適用法令

この混合物中のすべての成分は、日本の ENCS (既存および新規化学物質) の目録に記載されて、ISHL (労働安全衛生法) の適用が除外されているか、または関連規則に基づく CBI 要件もしくは開示規則により非開示である。

オクタメチルシクロテトラシロキサン (556-67-2)	
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	監視化学物質 (同法第 2 条第 4 項)
労働安全衛生法	【2026 年 4 月改正後】 化学物質名等を表示すべき危険物及び有害物 (同法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号及び第 2 号、別表第 9) 危険物質 - 引火性物質 (施行令別表第 1 第 4 号) 【2026 年 4 月改正後】 化学物質名等を SDS で通知すべき危険物及び有害物 (同法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号及び第 2 号、別表第 9)
消防法	第 4 類、引火性液体、第 2 石油類、水不溶性液体 (同法第 2 条第 7 項、別表第 1、第 4 類)
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律	有害液体物質 - Y 類 (同法第 3 条第 3 号、施行令第 1 条の 2、別表第 1 第 2 号)
外国為替及び外国貿易管理法	輸出貿易管理令別表第 1 の第 16 項
道路法	自動車交通規制 (施行令第 19 条の 13、日本道路公団出版)
日本の化学物質排出移動量届出制度 (PRTR 制度)	第一種指定化学物質 (同法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1) オクタメチルシクロテトラシロキサン (政令番号: 601) (100%)

CAT-50

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 16: その他の情報

作成日または最新改訂日

2024 年 9 月 10 日

参考文献

本書は日本の危険有害性周知基準である安全データシート(SDS)の要件 JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準じて作成された。

データソース略語の用語集

ATSDR: 有害物質・疾病登録庁(米国保健福祉省)
AU_WES: オーストラリア WES
CHEMVIEW: ChemView(米国環境保護庁)
EC_RAR: 欧州委員会更新評価報告書
EC_SCOEL: 欧州委員会職業暴露限界に関する科学委員会
ECETOC: 欧州化学物質生態毒性・毒性センター
ECHA_API: 欧州化学品庁 API
ECHA_RAC: ECHA リスク評価委員会
EFSA: 欧州食品安全機関
EPA: 米国環境保護庁
EPA_AEGL: 急性暴露ガイドラインレベル(米国環境保護庁)
EPA_FIFRA: 連邦殺虫剤・殺菌剤・殺鼠剤法再登録資格決定(米国環境保護庁)
EPA_HPV: 大量生産化学物質(米国環境保護庁)
EPA_TRED: 許容度再評価の適格性判断に関するリスク評価(米国環境保護庁)
EU_CLH: 欧州連合調和分類およびラベリング提案
EU_RAR: 欧州連合リスク評価書

FOOD_JOURN: Food Research Journal(1956 年)
IARC: 国際がん研究機関
IDLH: 米国国立労働安全衛生研究所の急性の毒性限度(「生命または健康に対する差し迫った危険」の値プロファイル)
IUCLID: 国際統一化学情報データベース
JAPAN_GHS: 分類データに関する日本の GHS 基準
JP_J-CHECK: 日本 J-Check
KR_NIER: 韓国国立環境科学院の評価
NICNAS: オーストラリア国家工業化学品届出審査機構
NIOSH: 米国労働安全衛生研究所(米国保健福祉省)
NLM_CIP: 米国国立医学図書館 ChemIDplus データベース
NLM_HSDB: 米国国立医学図書館有害物質データバンク
NLM_PUBMED: 米国国立医学図書館 PubMed データベース
NTP: 国家毒性プログラム
NZ_CCID: ニュージーランド化学物質分類および情報データベース
OECD_EHSP: 環境・健康・安全に関する出版物(経済協力開発機構)
OECD_SIDS: スクリーニング情報データセット(経済協力開発機構)
WHO: 世界保健機関

本安全データシート(SDS)の情報は、本 SDS 記載の日付時点で正確であると考えられるデータに基づいて作成されたものである。法の許容する最大限の範囲で、NuSil Technology, LLC およびその関連会社(「NuSil」)は、本書記載の情報(正確さ、完全性、目的または使用の適宜性、商品性、不侵害、性能、安全性、適合性および安定性に関するものを含むがこれらに限定されない)に関するすべての表明および保証を明示的に排除する。本 SDS は、適切に訓練されたスタッフが製品を取り扱う上での適切な使用方法、取扱い、保管および廃棄の方法に関してのガイドとなることを目的としているが、すべてを網羅したものではない。NuSil 製品のユーザーは、その目的と使用内容に応じて、各製品および製品の組み合わせの安全性、適合性、適切な使用、取扱い、保管および廃棄について、ユーザー自身でテストを行い、判断することが推奨される。法の許容する最大限の範囲で NuSil は、いかなる状況においても、利益の損失、風評被害、製品の回収または事業の中断を含むいかなる特別損害、間接損害、偶発的損害、懲罰的損害または派生的損害についても責任を負わないものとし、NuSil の製品を購入したユーザーは、そのことに同意するものとする。

日本 GHS SDS